

第 194 回例会 氷ノ山千本杉ヒュッテ整備山行記録

報告：白形 洋

山行日：平成28年6月4・5日

参加者：神戸大学山岳会＝6名

（責任者）山田 健、東郷 賢治、金井 良碩、白形 洋、居谷 千春、山本 恵昭

神戸大学山岳部＝6名

（部 長）河端 俊典（農）

藤川 佳祐（営）、稲川 魁人（理）、清野 幸司（法）、熊田 裕信（国）、杉山 和弘（工）

行 程：6月4日 阪急六甲駅 金井車、河端車の2台にて東郷、学生5名の計8名出発

養父市大屋町夏梅にて山田、居谷、山本合流 大段平にて白形合流

大段平発（1220）— 小屋結集（1345）

現役は主に、氷ノ山頂上往復、薪の材料収集、小屋の清掃、夕食の準備

OBは主に、薪の材料収集、水源・水道の整備、小屋の整頓

午後5時を過ぎると次第に霧が出て来て、日が落ちると雨と風

5日 小屋発（0920）— 大段平（1010—1030）— ねむの木山荘（1105—1255）

夜明けと共に三々五々、テラスにおいた枯れ枝を薪として取り込む

小屋の内外の整備・整頓



28.6.5.に集合した全員

「ねむの木山荘」前にて

この新年の遠征報告会の際、この春からは4年生1名、2年生1名の体制になるとの話を聞いており、新人の状況に関心があった。それが今山行の計画で4名の新人が参加すると知り、悦び勇んで長駆出掛けた。河端山岳部長のご尽力に感謝！

小屋に到着後まず、山岳部創設百周年記念事業の一環として進められた千本杉ヒュッテ改修工事の成果を確かめた。小屋内の土間はきちんと打設されて一枚床となって、傾いていた階段も直って

気持ちよく上り下りでき、便所も綺麗になっている。傾いていたテラスも復旧され、水道も小屋付近と水源地が整備されて勢いよく出ている。改修事業に参加した諸兄諸姉に感謝！ 彼らの努力がなければ、完遂できなかつた。

現役、河端部長、東郷、居谷諸兄は雨の降る前に頂上へ。山本兄はスズコ(根曲竹の子)の採集。夕食前には、現役の恒例作業となっている丸太からの薪作り。なかなか小気味良い音を発しての一打では決められない、経験あるのみ。

初日の夜は、夕刻から天気が崩れたにもかかわらず小屋の中は快適で、年齢差50歳を越えるOBと新人の歓談が進んだ。OBは山岳部が続くという安堵、4～2年生を核とした現役への期待をもって、現役は誰一人臆することもなく、会話に参加していた。その様な新人に頼もしさを感じ、学業は厳しいだろうが山行は続けて欲しいとの思いをもって聞いた。

特に金井兄のアタカマ遠征、山本兄のカラコルム、チベットからアンデスへと広がる山行歴には、現役諸君には興味深かったことだろう。山行はヒマラヤ・カラコルム・チベットだけでなく、世界が舞台であることを知ることが出来たと思う。

大学の年間行事・授業計画がOB諸兄の頃の前期後期のハーフ制からクォーター制と改められており、現役諸兄には7日に試験を控えている中での山行であった。制度の変更によって、夏秋冬春の山行の時期がずれてくるようである。OBからは大学に5年在籍したとの話もあったが、現役にはそれが当然とは考えない様にしてもらいたい。

その他、山岳部に入ったきっかけ、山岳部の歩み来た中での出来事、山行、はたまた北海道で6日間行方不明になっていた小学生が救出された事件などが話題となり、話題の尽きない宵であった。

翌朝は未だ雨が降り続けている。夜明けと共にテラスに盛り上げた枯れ枝を薪とし、小屋への取り込みに精を出す。何時まで続くか判らなかつた量の山が、短時間で全て小屋の中へ。これで今年の小屋での生活も楽しいものとなるだろう。

小屋を発つときは未だ小雨であったが、それでも頂上を目指すパーティに出会う。山菜に対してな



現役五人組

左より 熊田、稲川、杉山、清野、藤川(2年生)

のか、登山に対してなのか彼らの執念に感心する。大段平に着く頃には雨は上がっていた。

引き続き、ハチ高原へ移動する。わたしにとって丹戸の谷・ハチ高原は、大学を卒業する昭和51年3月以来40年振りの訪問である。しかも谷の奥からの訪問であるので、記憶が定まらない。

この日の昼食は、金井健二、壺阪祐三、高田和三、和光広典の諸兄がハチ高原・ねむの木山荘にて準備をしてくれているとのこと。彼らも氷ノ山千本杉ヒュッテに新人が登って来る事がきっと嬉しいのだ。彼らを歓迎する意を込めての暖かい昼食会、ありがたい。

昼食後、河端部長、現役諸君は翌日の試験に備えて、金井(良)、山本、白形は所用により慌ただしくハチ高原を後にした。

(白形 洋 記)